

害虫調査に活躍する
羽化トラップ

さまざまな生き物が住む森林では、ときおり大規模な食葉被害が発生します。そんなとき、どんな種類の虫が被害をひきおこしているのか、そして、その数が今後増えていくのかどうか大きな関心事となります。

高い木の上にいる虫を調べるのは容易ではありません。しかし、こうした虫の多くは、木の上で葉を食べ終えたあと、土の中に潜り込み生涯の大半を眠って過ごしています。そして、暖かな季節が到来すると、成虫となって、再び木の上へと戻っていきます。このタイミングを狙えば、地上での調査が可能となります。

しかし、いつ出てくるとも知れない虫をじっと待っている訳にもいきません。そこで登場するのが羽化トラップです。このトラップは、ピラミッド型をした小型のテントで、これを、被害地の林床に設置しておく、土中から出てきた虫は、テントの内側をつたって上へ上へと登っていき、頂部の容器で捕獲されます。容器の中には防腐液が入っており、虫はここで溺死し、そのまま保存されます。

これまでにいろいろな羽化トラップが考案されていますが、森林総合研究所は、これまでになかった、軽量でコンパクトに収納できるタイプの



羽化トラップ

トラップを開発して森林害虫の調査に活用しています。作り方を含むマニュアルを以下に公開していますので、どうぞご活用ください。

https://www.ffpri.affrc.go.jp/thk/research/org/documents/soil_insect.pdf



ご関心のある方は、森林総合研究所東北支所
(TEL:019-641-2150)へお問合せ下さい。